

私はこれまで、海外で起こっている出来事をニュースで見ても、あまり気に留めていなかったんだと気付いた。今年二月に始まったロシアのウクライナに対する軍事侵攻に関しては、多くのことを考えさせられた。

コロナ禍の不自由があるとはいえ、日本に住む私たちは普通の生活をしている。突然の戦争によって、ウクライナの人達の生活は、私が想像するより悲惨なものだろう。何か力になれることはないかと、考えることはあったが、何も実行できない自分を情けなく思うこともあった。

そんな中、ふと流れるニュースが目にとまった。武器をもたない日本は軍事支援はできないが、医療や食料など、別の方法で支援をしているという内容だった。そのお金はどこからきているのだろう。それも、税金ではないか。私も少し関わっているのではないかと思った。

ニュースや国の発表によると、現時点で日本は、防弾チョッキやヘルメット、衛生資材や医療用資器材等の提供。無償の三億ドルの緊急人道支援（保健、医療、食料、保護、復旧等の分野における支援など）。借款で六億ドル（七七二億円）の財政支援。その他、日本への避難民の受け入れや、ウクライナ人留学生に対する奨学金の給付などの、さまざまな支援を行っている。

最近のテレビ番組で、「税金を支払うと、あなたの税金は〇〇に使われました。ありがとうございます。と給与明細に書かれてあると納得するし、気持ちよく納税できるよね」という話があった。まさに同感だった。お礼を言ってほしいわけではないけれど、例えば私の払った消費税がウクライナの人達の助けになっているのであれば、こんなに誇りに思えることはない。

調べていく中で、外務省や国税局のホームページを見ることとなったが、作文を書くというきっかけがなければ、それを見ることはずっと先だったかもしれない。

日本は今回だけでなく、これまでも飢餓や栄養不足に苦しむ発展途上国や、災害の起こった国に対して支援を行っていることも改めて知った。社会の授業で学んだODAがこれだ。同様に私たちも、これまで日本で起こった災害などにおいて、世界各国から支援を受けてきた。

コロナ対策など、日本の財政も余裕ではないようだが、自分だけ、日本だけがよければそれでいいという考え方は恥ずかしい。私たちの税金は、目に見えているものだけではなく、私を含めた誰かのためになっている。世界の人たちが安心して生活できる未来に繋がっていると忘れずにいたい。